

あの・なはん

No.80

あの・なはん 盛岡弁で「あのねえ」と呼び掛けることば

「あの・なはん」はボランティアの「あの・なはん編集委員会」が編集しています。担当：男女参画国際課 ☎626-7525

お父さん 大好き♡

子育てって いいものだ

お父さん、子どもとの時間を楽しんでいますか。最近「イクメン」という言葉をよく見聞きするようになってきました。イクメンとは子育てを楽しみながら、自分自身も成長する男性をいいます。男性が子育てを積極的にすることで、家族のあり方も変わるのではないかとわれています。父親の子育てについて考えてみました。

歴史に見る父親と子育て

子育て事情も時代の流れと共に変わってきました。それでは、歴史をひもといてみましょう。

江戸時代——父は子育ての責任者

江戸時代の父親は、「家」「家業」の跡取りである男児をしつてたり、仕事を教え込んだりする役割を持っていました。ただし、長男とそれ以外の男児や女児とでは格差があったようです。子育ての主導権は父親にあり、その全責任を負っていました。父親向けの心構えを書いた子育て書もありました。

母親の役割は、跡取りを産むことと家事をすることが主でした。

また、家族内だけではなく、村などの共同体の子どもとして、名付け親など何人かの仮親*が子どもの成長を見守っていました。

※仮親：血縁関係によらない、乳をあげたり、子守りをしたりするなどの役割別の親子



明治・大正時代——お父さんは戦場へ

日清戦争後、国策として「良妻賢母」思想がつくられ、男性は職業や兵役、女性は家事や子育てを通して、国民や国家に貢献することが求められました。大正時代に入ってから、「母性愛」という新しい言葉が広まり、子育てが母親の役目として強調されるようになりました。

それにより、父親は子育てという舞台から遠ざかっていくことになりました。



©タテハナ



昭和時代——お父さんは働きバチ

戦後、世の中が落ち着いて高度経済成長期になると、早朝から深夜まで働きづめの父親が多くなり、またしても子育ては母親任せになりがちでした。

それは、父親が望んでそうなったのではなく、男性たちが子育てに関わりにくい社会的な背景もありました。

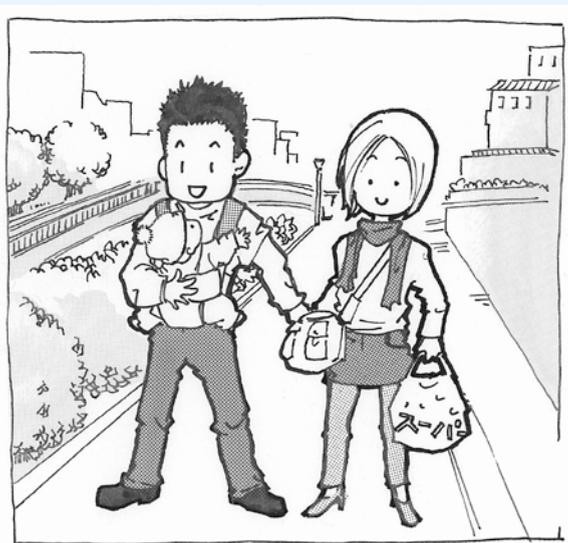


平成時代——イクメン登場

女性の社会進出が進み、結婚後や出産後も仕事を続ける女性が増えてきました。核家族化も一段と進みました。母親のみでの子育ては難しくなり、父親の出番が多くなりました。そのような中、子育てに意欲を持つ男性が増え、子育てを楽しむイクメンが登場しました。

父親の子育ては、歴史と共に変わってきていることが分かります。父親は社会の流れの中で子育てに関わりにくい時代がありました。しかし、平成になって子育てに意欲を持つ男性が増えてきました。

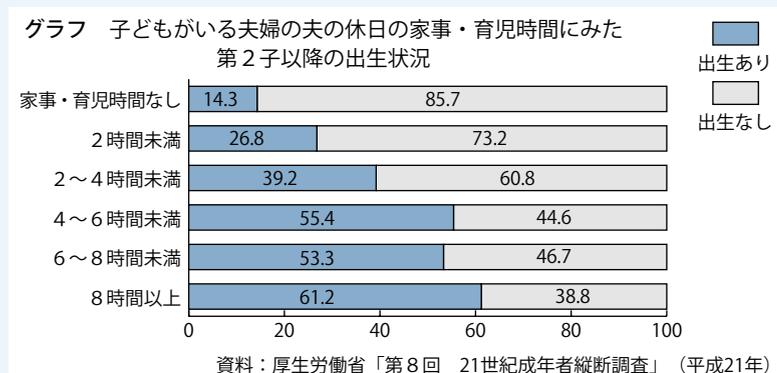
平成のイクメンは、子育てにどのように参加し、楽しんでいるのか、子育て事情を探ってみましょう。



参考文献：NHKテレビテキスト「歴史は眠らない」平成21年10月-11月

父親の出番を取り戻そう

下のグラフにあるように、休日に夫が家事や育児に関わる時間が多くなるほど、第2子を出産する割合が高くなっています。夫が子育てに関わることで妻に気持ちのゆとりができ、家族のあり方にも大きく影響することが分かります。

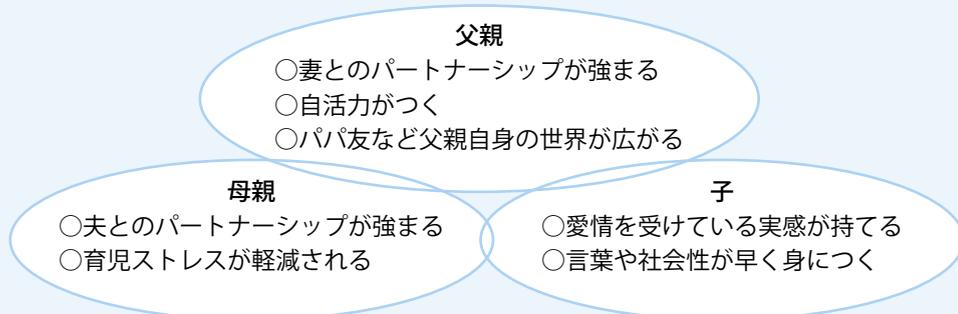


子どもと一緒に遊んだり、寝かしつけたり、おむつを換えたり、できることから始めてみませんか。自分なりの父親像をイメージしながら、父親の出番を取り戻しましょう。

目指せ イクメン

平成21年に育児・介護休業法(※1)が改正され、男性の子育て参加がしやすくなりました。ただ、それが活用されるには職場の理解と協力が欠かせません。また、男性が積極的に育児休業などを取得していくことも大事です。生活と仕事の心地よい時間のバランスが、イクメンへの変身につながります。

イクメンは、次のような効果(※2)を持つといわれています。



※1 詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/07/tp0701-1.html>

※2 参考：NPO法人ファザーリング・ジャパン代表安藤哲也氏講演資料
 (平成23年7月)

インタビュー ただいまイクメン奮闘中!!

♣ 男の子3人の父である上川原芳朋さんに子育てについて聞きました。

家庭ではどんなことをしていますか

風呂を洗って子どもを入れたり、妻が朝食を食べさせている間に洗濯物を干したりしています。保育園の送迎もします。結婚や出産前から家事分担を決めていたわけではありませんが、手が空いているほうがやるようになりました。

自分をイクメンだと思えますか

自分の中ではイクメンという認識はなかったです。子どもが生まれてから、自然の流れで家事や育児に関わってきました。妻との役割分担もできてきました。共働きをしていれば、互いに協力しないと大変です。育児取得が当たり前になると良いですね。

子育てについて誰かと話しますか

同じ年ごろの子どもを持つ同僚と、子どものことについてよく話をします。話をする人がいなかったら、自分はパンクするかもしれません。

子どもができて、自分が変わりましたか

明るくなりましたね。人と話すことが苦手でしたが、子どもをきっかけにして笑う



(後列左から) 上川原由晴君(1)、芳朋さん(35)
 (前列左から) 会晴君(3)、郁絵さん(31)、主晴君(6)=長橋町=

機会が増えました。仕事に対する向き合い方も変わりました。朝など子どもたちをせかしたり我慢をさせたりしているので、親としてしっかり仕事をしようと、強く思うようになりました。

子どもと一緒にしたいことは何ですか

私は写真が趣味なのですが、長男も大きくなって興味を持ち共通の話ができるようになってきました。いつか2人で遠い所へ旅をしながら写真を撮ってみたいですね。

♥ イクメンの夫を妻はどう見ているのでしょうか。郁絵さんの本音は・・・

90点かな

家事もやってくれるし、育児にも協力的でほぼ満点です。減点の10点は、こんな場面で怒らなくても良いのにと思うことが時々あるからです。もっと大局的にみてやってほしいかな。

子どもがパパを変えた

夫は、出掛けるときは必ず子どもを連れて行きます。子どもを連れて出掛けられる人とは思っていませんでした。こんなに育児に積極的になってくれてありがたいです。子どもができて変わったと思います。

子育て中のお父さんへ2人からのエール

子どもといると、自分では今まで気付かなかったことも、気付かせてもらえることがたくさんあります。忙しいかもしれませんが、子どもと積極的に接してほしいと思います。

子育ては自分育て

近年、子育てに積極的に参加し、楽しんでいるイクメンが増えています。乳幼児期の育児は期間限定です。このときの子ども笑顔は今だけです。せっかく父親になったのですから、母親を手伝うという意識ではなく、自分から積極的に子どもと触れ合いましょう。日々子どもが成長していく喜びを実感することで、子育てが楽しくなってくると思います。育児休業制度などを利用することも、子どもとの触れ合いを深める1つの手段です。

子育ては自分育てともいわれます。きっと自分も一回り大きくなるはずですよ。

こちら編集室

- 35年前を思い出しながら自分の子育てを振り返ると、夫はイクメンでした!! (Y. M)
- 最近増えた新しい父親像。うらやましいと思うのは古い世代の私。 (E. K)
- お父さん像も時代によって違うのですねえ。新しい発見でした。 (K. O)

